

平成18年5月11日

武庫川流域委員会 御中

委員 茂木立仁

基本高水の選択、整備計画の目標値、新規ダムの位置づけに関して、以下のとおりご意見申し上げます。

1 基本高水について

基本高水については、理論上その可能性がある流量を計算により出したものであり、現実が発生したものを根拠にするものでなく、現実が発生したも  
のから導き出す計算上のものであると考える。

確かに、実績値によれば、2900が最大であるが、100年単位で考えた場合、また、現在の異常気象等をあわせ考えた場合、治水の目標としては、理論的に考えられる最大流量を選択するのが相当と考える。

したがって、4700を選択するべきと考える。

2 整備計画の目標値について

- (1) 以前意見書を提出しているが、河川整備計画は、基本方針に「沿って」、「即して」策定されるものであり、期間的に達成されるべきかの観点から規定されていない。
- (2) 確かに、基本方針で策定された事項を最終的な目標として、基本方針に向けて段階的に達成していくべきものがあり、その最終目標の途中段階である20～30年の間に達成されるべき段階が存することは明らかであり、整備計画をそのような観点で期間ごとに目標を設定することは妥当であろうが、それを30年としなければいけない根拠は存しないと考える。
- (3) 河川整備計画と河川整備基本方針との法律的な規定から見れば、河川整備計画は、河川整備基本方針で示された方針を、具体的にどの程度の期間でその目標を達成していくのかという観点で、具体的な計画を策定するものであり、それを河川整備計画と呼ぶのが自然であり、結局のところ、河川整備計画が具体的な計画ということからすれば、実質的な治水効果を優先して、より具体化できる期間を設定するのが妥当というべきである。

### 3 新規ダムについて

新規ダムについては、その代替案を優先的に検討するのが相当である  
と考える。

以上